

平成31年度除去土壌等の減容等技術実証事業に関する質問への回答書

<技術実証フィールド（仮称）について>

質問	回答
実証フィールドの場所はどこか。	中間貯蔵施設区域内の大熊町長者原地内を予定しています。
実証フィールドの利用にあたって入域手続きは必要か。	実証フィールドは帰還困難区域内にあるため立入申請が必要です。手続きは JESCO で一括して行いますので、契約締結後手続きをさせていただきます。
実証ヤード内に建屋を設置する場合は事業者負担か。	実証ヤード内は粗造成（未舗装の平坦な更地）の状態を提供します。建屋（テント、プレハブハウスなど）は事業者の負担で設置し、事業実施期間内に撤去してください。
実証ヤードを利用する場合、用地の使用料の負担はあるか。	用地の使用料の負担はありません。
試験室（分析室）で行うことのできる試験・分析はなにか。	以下の試験・分析を予定しています。 土質試験：国土交通省策定の「発生土利用基準について」に関する土質試験項目並びに CBR 試験及び一軸圧縮試験 放射能分析：土壌、焼却灰、水等の試料の Ge 半導体分析装置等による放射能分析 一般分析：試料からの溶出等を想定した一般分析として基礎的な項目（Ca、K、Na、安定 Cs、塩素イオン濃度、電気伝導度、pH 等） ※発生土利用基準について： http://www.mlit.go.jp/tec/kankyuu/hasseido/060810kijyun.pdf
実証フィールドにおいて利用可能な土壌等はどのようなものか。	除去土壌や焼却灰等を想定しています。利用を希望する場合は、事前に相談してください。
試料（土壌等）を中間貯蔵施設区域外に持ち出すことは可能か。	試料の持ち出しは原則できません。
試験終了後の試料（土壌等）の処分はどうすればよいか。	管理者から提供して試験で使用した試料は、実証フィールドの管理者側に返却してください。
使用済みのタイベック製防護服等の廃棄物の処理はどうすればよいか。	事業者自らが適正に廃棄物処理してください。

実証フィールドではどのようなインフラが使用できるか。	電気、水については、一定量を上限として使用できる予定です。
実証フィールドの利用手続きは提案書の該当欄に記載することで良いか。	様式 1-1「主な実施場所」に必要性等を記載してください。

<その他>

質問	回答
共同提案を行う場合、どのように記載すればよいか。	様式 1-2「実施内容」に共同実施者として明記し、役割分担等の体制を記載してください。ただし、実施代表者は一者としてください。
複数年度の提案を行う場合、どのように記載すればよいか。	様式 1-2「実施内容」に複数年度の計画として記載してください。「実施スケジュール」にもその旨を記載ください（ただし、「主要な実施項目」は1年目の予定を記載してください）。
複数年度の提案として応募し採択となった場合、毎年度審査はあるか。	複数年度の事業であることを前提として採択しますが、設定した目標の達成状況等について評価を行い、事業継続実施の可否について審査します。
間接費は何パーセントで見積もればよいか。	15%以下としてください。
応募提案書(様式 1-3)の積算内訳に計上する費用について、2,000万円を超えて弊社の持ち出しが発生する場合、総額を記載した上で「その他特記事項」に持ち出し金額を記載すればよいか。	総額のみ記載してください（持ち出し金額の記載は不要です）。
機器をリースし、オペレーター等を外注する予定だが、再委託に当たるか。	機器とオペレーターの発注を個々に行う場合、機器のリースは機械装置費、オペレーター等の労務費は外注費としてください。機器とオペレーター等を合わせて発注する場合は全体を外注費としてください。いずれも外注費は再委託に当たります。 <参考>公募要領 6. (6) 業務における総合的な企画及び判断並びに業務遂行管理部分を自ら行うものであり、再委任していないこと。再委任等により外注が認められているものは、業務に付帯する分析等であり、その費用の合計額は、原則として、直接費（人件費及び業務費）と間接費（一般管理費）の合計額の2分の1未満であること。